中小企業診断士の視点 @にいがた

第58回 経営の視点から捉えるスポーツ②スタジアム・アリーナ

中小企業診断士 島田　達人
（一社）新潟県中小企業診断士協会

今号ではハード面の動向をご紹介します。スポーツには、空間・時間・仲間という三つの“間”が必要だと言われており、このうちの空間づくりの動向を取り上げます。物理的な空間づくりは『競技場』や『体育館』等の施設整備が該当します。『競技場』や『体育館』は、「定期的に数千人、数万人の人々を集める集客施設であり、飲食、宿泊、観光等周辺産業へ経済波及効果や雇用創出効果を生みだす地域活性化の起爆剤となる潜在力の高い基盤施設」と再定義され、それぞれ『スタジアム』と『アリーナ』という呼称に新しい意味が込められています。表１は2023年、2024年に誕生する『スタジアム』と『アリーナ』の一覧です。

	『スタジアム』	『アリーナ』
2023年	・きたぎんボールパーク（盛岡市） ・エスコンフィールドHOKKAIDO（北広島市） ・今治里山スタジアム（今治市）	・オープンハウスアリーナ太田（太田市） ・SAGAアリーナ（佐賀市）
2024年	・金沢ゴーゴーカレースタジアム（金沢市） ・エディオンピースウイング広島（広島市）	・LaLa arena TOKYO-BAY（千葉県船橋市）
	・PEACE STADIUM Connected by SoftBank、長崎スタジアムシティ アリーナ（長崎市）	

表１：2023年、2024年に開業（予定）のスタジアムとアリーナ

これらの施設は従来の『野球場』『球技場』『体育館』などとどう違うのでしょうか？ 私なりにその違いを整理したものが表２です。

	『野球場』『球技場』『体育館』	『スタジアム』『アリーナ』
立　地	郊外立地：日常生活動線からは隔離	中心市街地立地：街ナカ立地、駅近立地
機能性	単一機能：競技中心	複合機能：競技以外の多用途（防災拠点含）
開放性	利用日限定：利用日かつ利用者に限定	メイン利用が無い日にも施設の一部を開放
ゾーニング	観覧席主体：飲食提供やＶＩＰルームは一部	観覧席＋様々な観覧席、飲食・物販も拡張
整備と運営	公設公営→公設民営	公設民営、民設民営
収益性	コストセンター	プロフィットセンター

表２：施設のパラダイムシフト

様々な面で従来の施設と異なる新しい施設ですが、その根底には２つの考え方が流れています。一つは、施設とその施設が立地する地域・社会の持続可能性です。行政の財政負担を軽減し、かつ地域に暮らす人々の心と身体の健康に貢献することがこれからの施設には求められます。そしてもう一つが、筋書きが無いスポーツというものを同じ時間、同じ空間で仲間と一緒に体験すること、すなわち三つ“間”を最大化する舞台装置としての役割を果たすことこそスポーツの本来的な価値を発揮することにつながるという考え方です。

スポーツを動機としたスポーツツーリズムという旅行形態が全世界的に拡がりつつあるという報告もあります。表１でご紹介した施設以外にも新しい施設が続々と誕生しています。お仕事、プライベートでの移動の際に時間をみつけて新しいスポーツ施設を訪ねてみてはいかがでしょうか。きっと今までとは異なる感覚でスポーツを体感できる機会が得られるはずです。

参考：『スマート・ベニューハンドブック―――スタジアム・アリーナ構想を実現するプロセスとポイント』（著　日本政策投資銀行　地域調査部、日本経済研究所、早稲田大学スポーツビジネス研究所）

【問い合わせ先】
新潟県中小企業診断士協会
ホームページ：https://www.n-smeca.jp/
電　　話：025-378-4021
Ｅメール：office@n-smeca.jp